

子ども劇場ニュースレター

No. 49

Society of Children's Theatre Works & Community Development

発行責任者 中島久美子

くまもと子ども劇場 50 周年記念事業 スタートしました！！

1972 年 3 月 26 日、熊本に子ども劇場が誕生しました。今年度は 50 年歩み続けてこられたことへの感謝を形にしていこう！！とたくさんの記念事業を企画しています。

その第 1 弾として、取り組んだ友田明美氏によるオンライン講演会『ともに子育てするために～子どもの脳とこころを傷つけない子育て～』にはたくさんの方にまた、県を越えて参加いただきました。子ども劇場会員にとどまらず、一般の子育て中の保護者・保育士・学童の先生など子どもに関わる皆さんと学び合うことが出来ました。初めて、講師ともオンラインでつなぎ、YouTube での配信にチャレンジしました。不慣れで聞き取りづらいところもありましたが、友田先生のお話はしっかり聞くことが出来てホッといたしました。講演後、参加者からの感想も寄せられ、今後の私たちの活動にも弾みがつきました。

友田先生がひろげたい子育ての環境は「孤育て」ではなく「とも育て」私たち子ども劇場も子育ての受け皿（サポート）になるよう、まずは、存在を知ってもらいたいと思いました。50 周年事業を進めつつ、現役子育て中の方と、「ともに」「一緒に」子どもたちを見守っていけるよう取り組んでいきたいと思っています。

令和 3 年(2021 年) 4 月 25 日 日曜日 12

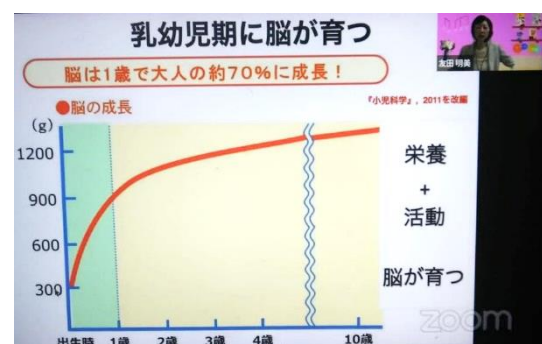
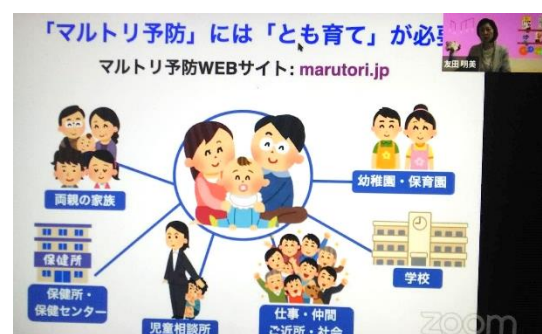
くらし | Life |

月、水、木、金、日曜日 掲載

「子ども劇場」県内活動50年

芸術体験の場 守りたい

↑4/25 熊本日日新聞に掲載されました！



目次

1. 50 周年記念事業スタート 1
2. 子どもわくわくアートフェス 2021 2
3. 委託事業報告 3
4. 「エルマーのぼうけん」取り組み 4・5
5. 各劇場の様子 6
6. 人吉八代豪雨災害文化支援事業について 7
7. これからの予定 8

発行 特定非営利活動法人熊本県子ども劇場連絡会
〒860-0821

熊本市中央区本山 1 丁目 6-9 白木ビル 3 階
TEL 096-356-0741 FAX 096-356-0780
e-mail info@kumageki.jp
<http://www.kumageki.jp>

(編集：東坂)

緊急特別企画

2021年3月20日・21日開催@熊本県立劇場 練習室

※コロナ対策として密を避けるため、各回入場者を制限して実施しました。(延べ参加者人数 356名)

子どもわくわくアートフェスティバル 2021

<参加創造団体および作品>

(20日) OH オフィス 太田ひろし「不思議ってステキ」 第1練習室 11:00/14:00

人形劇団ののはな「ともだちげきじょう」 第2練習室 11:00/14:00

野田かつひこ ほのぼのコンサート(低学年対象) 第3練習室 11:00/14:00

(21日) 風の子九州「モシモランド」 第1練習室 11:30/14:30

音の和 music(乳幼児親子対象) 第2練習室 11:00/14:00

「不思議ってステキ」



「ともだちげきじょう」



「野田かつひこコンサート」



新作「モシモランド」



乳幼児親子対象「音の和コンサート」

私たちは毎年3月春休み前に生の舞台公演を楽しみに待つ親子のために「合志市国際子ども芸術フェスティバル」に協力して取り組んでまいりました。しかし残念ながら、新型コロナ感染拡大の収束が見通せず2年続けて中止となりました。そこで、熊本県子ども劇場連絡会の緊急特別企画として、熊本県立劇場に会場を移して「子どもわくわくアートフェスティバル 2021」を開催しました。

準備期間1ヶ月ちょっと。理事・運営スタッフ一丸となつてのぞんだ本企画。

入場制限を設けなければならないことが残念ではありましたが、県内各地からたくさんの方に参加いただきました。

「久々に生の舞台に触れ、あらためて“来てよかった”“楽しかった”」と口々にして帰る参加者。

私たちは「やって良かった、やれて良かった。」とスタッフみんなが安堵しました。

急な企画にもかかわらず、ご協力いただいた5つの創造団体には感謝の気持ちでいっぱいです。

たくさんの笑顔の花が咲きましたことをご報告いたします。



会場入り口の様子

熊本まちなみトラスト委託事業報告

2021年3月5日・7日開催

今回、熊本まちなみトラスト さんからのお声掛けにより、地域子どもたちが人形劇の鑑賞会という形で、歴史的建造物に接する画期的な機会がつくることができました。（以下、熊本まちなみトラストの報告を抜粋）

第1弾：人形劇団 ののはな公演 第2弾：熊本ミュージックアーティスト 公演

熊本まちなみトラスト公益社団法人がパブリックリソース財団が運営する「J-Coin 基金助成事業」の助成を受けて、「震災復旧工事完了施設の公演会場と公演団体のマッチング」として4つの活動を企画してきました。コロナ禍の中での下記のマッチングを目的とした事業です。

- ①子供の健全育成・コミュニティにおける音楽文化の振興
- ②芸術・福祉活動を行う団体への場の提供
- ③解体を免れた近代化遺産の活用
- ④地域社会、地域活性化への支援 震災復旧工事完了施設の公演会場と公演団体のマッチング

その第一弾として、人形劇団ののはな公演：3月5日（金）午前10時からカーリーノMSビル（旧住友銀行熊本支店）で開催。保育園児とご近所の皆さんだけに限定して感染対策を徹底して行われた公演では、園児たちが実にお行儀よく靴をそろえて楽しそうに参加し、「ののはな」さんの素晴らしい人形劇に目を輝かせて大喜びしてくれました。保育園の先生にも飛び入り参加をしてもらい、充実した公演となりました。

また、第二弾として、熊本ミュージックアーティスト弦楽コンサート：3月7日（日）午後2時からPS オランジュリで開催。コロナ禍にあって、ご近所の皆さんだけに限定して感染対策を徹底して行われた公演では、PS オランジュリの素晴らしい音響環境の中で、熊本ミュージックアーティストのピアノ、ヴァイオリン、コントラバスの演奏がホール中を満たし、親しみやすい選曲と相まって、素敵な演奏会となりました。



くまもと子ども劇場創立 50 周年 オープニング企画 人形劇「エルマーのぼうけん」 たくさんの活動がうまれています!!

熊本市子ども劇場では、『エルマーまつり』を盛り上げるため「エルマーまつり実行委員会」を発足させ、各エリアでアイデア満載の活動をつくり、取り組んでいます。グループLINEを作り、その中で活動の様子を共有し、楽しい雰囲気が続くよう、小学2年生のお子さんを持つ実行委員長の越戸さんが旗振り役として頑張っています。先日代表理事の中島さんと二人でラジオ出演し、子ども劇場のアピールもしていただきました。「エルマーのぼうけん」の歌も流してもらい、ラジオを聞きながら明るい気分になりました。

※『エルマーまつり』は5月5日開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大の伴い、延期としましたが、鑑賞会当日でも楽しめるように…と気持ちを切り替えています。エルマーを観た後のお楽しみとして開催したいと思います。



城北エリアの事務局長が描いたチラシの絵！見ていて楽しくなっちゃいます！



エルマーまつりの後に熊本子ども劇場50周年のアピールをしよう！とパレードを企画しています。そのための横断幕を高学年女子4名で作りました!! デザインからすべて、子どもたちの手で作りました。やりたい、描きたい気持ちで作ってくれたことが横断幕右下の「楽しいがいっぱい！」に表現されていて私も感激しました！（東坂）

私たち子ども劇場は発足当初からの願い『子どもたちを真ん中に、子どもにとってより良いものを！』と地域の大人や青年たちが手をつなぎ「ともに子育て」を目指してきた「子ども劇場を知ってほしい！」「生の人形劇の素晴らしさを知ってほしい！」という思いを込めて企画しました。たくさんのご応募を頂き、4月30日をもって締め切りました。熊本県内の親子50組、コロナ禍で心が晴れない日々を過ごしている子どもたちに少しでも楽しい時間を過ごしてもらえたらと思います。



エルマーまつり 準備の様子

いきものさがし
&パレードのりゅう



パレード
横断幕づくり



りゅうのすべり台作り



エルマーのぼうけん
フォトスポット



みかんガリガリ



エルマーのぼうけん
会場設営の絵



りゅうの指人形づくり



らいおんの三つ編み



エルマークッキー作り



人形劇団フーク「エルマーのぼうけん」

事前 ZOOM 交流会

2021年4月23日（金）



『エルマーのぼうけん』公演に向けて、子ども劇場九州沖縄連絡会の皆さんと、zoom 交流会をしました。

九州各地会場には元気あふれる会員さんが総勢 200 名集合。仲間づくりの楽しい報告を受け、フークの稽古場からはエルマー班メンバーが作品の魅力を発信し、5月18日からの2週間の公演が待ち遠しい気持ちで、おおいに高まる交流会でした。（フーク FB より）

くまもと子ども劇場からも、23 名が参加しました！

フークの普段は見られないアトリエの様子に「へ～！」「すごいね～！」を連発！

九州各県の子ども劇場が、エルマーの公演に向けて、いっぱい楽しもう！！としている様子が見られ、「私たちも、もっと楽しいことしよう！」と、ワクワクの気持ちが盛り上がってきました!!

熊本会場（本山の事務所）は必死で作った「りゅうのすべり台」をはじめ。フークの興梠さんに教えていただきながら作った「エルマー少年の人形」何年も前に取り組んだ時に作った「りゅうのぬいぐるみ」などで会場はとても賑やかに彩られました。また、参加者はボーダーの装いにそろえて参加しました。久しぶりにお祭りの時のような気分でした。フークの皆さん、ありがとうございました!!



ひとよし・くまこども劇場

2021年3月例会

熊本ミュージックアーティスト

「子どものための弦楽コンサート♪」

2021年3月27日（土）@人吉市 犬童球溪記念館

13:00/15:30 2ステージ



昨年8月末以来の例会でした。新型コロナの影響もあり例会が出来る会場を手配するのに苦労されましたが、豪雨災害文化支援事業でお世話になった鶴上さんを頼りに、人吉市の犬童球溪記念館で開催することが出来ました。

感染症対策のため、午後から2ステージ！卒園式などがあり欠席の会員もいましたが、40名ほどの参加となりました。

熊本ミュージックアーティスト3名が奏でる弦楽コンサート。一曲一曲にメッセージが込められ、豪雨災害に加え、コロナ禍の中に必死に過ごしたみなさんが涙ながらも、笑顔で聴いていらした姿がとても印象に残りました。

文化芸術が力を与えるって、このことだなあとしみじみ感じる一日でした！

※7月例会として、「ちゃぶ台」の木内里美さんの朗読ワークが開催予定です。



人吉八代豪雨災害文化支援事業



ソーシャルディスタンスをとっての会場作り。パントマイマーのチカパンもやや緊張しつつも、楽しく演じられていました。



2021年3月18日 八代市文政第2保育園・桜十字ホール練習室
にて パントマイム「チカパンといっしょにパントマイム」

出演：パントマイムプラネット 1回目80人、2回目40人が参加しました。

八代市文政第2保育園のホールに集まった子どもたちは、チカパンのうごきに口々に声を上げて、一緒にパントマイムを演じているような気持ちが伝わってくる、ワクワクドキドキに時間でした。子どもたちのキラキラ輝く瞳に、やってよかった、届けられた事に嬉しさいっぱいでした。先生方も大変喜んでおられました。子どもたちの喜ぶ様子に待ち望んでいた思いが伝わりました。

また、夜はやつしろ子ども劇場の仲間が中心の公演でした。パントマイマーのチカパンの言葉のない動きに目を凝らし、つい口からでちゃう子どもたちの言葉に耳を傾けながら、月の世界に入り込んで行くファンタジックな雰囲気を楽しみました。「クラゲ〜」「わかめ〜」と会場が海の中にな変わっていきます。物語を会場みんなで作られていく心地よさ、心にほんわかするものを感じました。

昨年の豪雨から10ヶ月が過ぎました。各方面から被災地への支援はありますが、子どものための舞台を届ける団体は、私たち子ども劇場しかないと言っても過言はありません。被災地はまだまだ落ち着かない様子です。「文化芸術が持つ力」を信じ、子どもたちに生の舞台を届けられるよう、今年度も引き続き取り組んでいきます。

皆様のご協力も合わせてお願い申し上げます。

これからの予定



50周年企画 子どもの権利条約学習会

日時 : 2021年6月19日(土) 13:30~16:30
会場 : 熊本市民会館 大会議室
対象 : 子どもに関わる方すべてのみなさん
参加費 : 熊本県内の子ども劇場会員無料 一般の方 1000円
定員 : 100名
主催 : 特定非営利活動法人 熊本県子ども劇場連絡会
＜内容＞ 1部 講演会 13:40~15:10

「コロナ禍で考える子どもの“いのちと健康”」

講師: 野井真吾氏 (日本体育大学体育学部教授)

2部 対談 15:20~16:00

「子どもの権利条約をベースに

“今の子どもの日常を考える!”」

講師: 野井真吾氏 (日本体育大学体育学部教授)

北島尚志氏 (元アフタフ・バーバン代表 表現活動クリエイター)

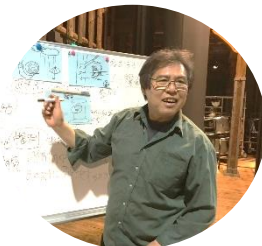
※当日オンライン配信での講演会で、アーカイブもあります。(6月20日以降10日間配信予定)
詳細が決まり次第お知らせいたします。



講師プロフィール: 野井真吾氏

子どものからだと心・連絡会議議長。

専門は学校保健学、教育生理学、発育発達学、体育学を専門として、子どもたちの“からだ”にこだわった研究活動を行っている。



講師プロフィール: 北島尚志氏

聖心女学院非常勤講師 表現することを楽しみ、コミュニケーションする力(かかわり合いの日常)を豊かにしていくため、表現活動としてのあそびの世界にこだわる。

(編集後記)
先日、3月末に発行されたふくおか子ども白書2021。副題に「子どもの声が社会を変える」とあり、私たちはちゃんと子どもの意見を聞き、活動に反映してきたかなと思いつながりながら読ませていただきました。子どもの権利条約の中に「意見表明権」があります。私たち大人は子どもが意見を言いやすい環境を先ずもって作らないといけません。新型コロナウイルスの感染がまだ収まらない中、窮屈な生活をしていることを考えると最優先に取り組まなければと思います。
50周年の活動の中で、子どもだけでなく、関わる大人たちの声も集めて、ともに新しい未来に向かっていけたらと思います。
(東坂)

＜賛助会員の皆さま＞

- ・熊本機能病院
- ・近代経営
- ・カリノホールディングス
- ・熊本なべしま
- ・長田進文堂

ご支援ありがとうございます!